

神戸市人と猫との共生ガイドライン（案）に関する意見募集結果について

「神戸市人と猫との共生に関する条例」が平成29年4月に施行されました。この条例は、猫のトラブルや殺処分を減らして、「人と猫が共に生きるまち神戸」をめざすものです。

このたび、条例に基づき組織された「神戸市人と猫との共生推進協議会」が、人と猫が共生する社会を実現するために、猫に関わる全ての人たちを対象とした、それぞれの立場の人たちが何をすべきかをまとめたガイドラインを策定しているところです。

策定にあたり、「人と猫との共生に関するガイドライン（案）」に対する市民の皆様のご意見を募集したところ、貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。

お寄せいただいたご意見については「神戸市人と猫との共生推進協議会」とともに検討し、それに対する考えをとりまとめましたので、次のとおりお知らせします。

【意見募集期間】

平成31年1月15日（火曜）から平成31年2月15日（金曜）

【意見の提出状況】

4件

【意見の概要及び意見に対する考え方】

No.	意見の概要	意見に対する考え方
1	<p>P14「将来的に野良猫がいなくなり」の部分。「人と猫の共生」という観点、子供たちの情操教育の観点、愛玩動物であり、人間生活にも寄与しているという文言を盛り込んでほしい。野良猫、地域猫は一定数必要なのではと考える。</p>	<p>ご指摘のあった部分は、野良猫を一律に排除するという考え方ではなく、今いる不幸な野良猫を可能な限り減らしていくという観点から記述したものです。「猫がいることが自然」というご意見を否定するものではございませんので、ご理解をお願いします。</p>
2	<p>飼い猫の健康について</p> <p>①p.5 心構えの項目に「猫の健康維持に必要な栄養を摂取できる（キャットフード）を適切な量提供できますか？」を追加してほしい。</p> <p>②p.7「遊び場」または「空調」のどちらかに「日光浴ができる場所を確保する」ことを記載してほしい。</p> <p>③p.11 健康管理の説明において、病気にしない→日々の健康チェック→診療、という順序にするため、「一方で、人と猫では食べるものが～」の部分の冒頭に移してほしい。</p> <p>④P.17 水が入ったままの容器を放置することで蚊の発生源となりうるため、「夏季には蚊の繁殖防止のため、毎日水を交換しましょう。」と記載してほしい。</p> <p>⑤p.29「(4) 食餌・給水・排せつ」「いわゆる"猫まんま"やドッグフードは栄養上不適当である」ことを記載してほしい。</p>	<p>①ご指摘のページは猫を飼育する際の心構えであり、紙面の都合上、内容を詳細に書くことはむずかしいため、参考資料 1-4「食餌・給水・排せつ」に文言を追加しました。</p> <p>②日光浴は猫にとって望ましいものの必須とはいえないため、記載は見送りました。</p> <p>③最も重要なこととお伝えしたい点は、まずはしっかりと日々観察し、異常があれば診療を受けることであると考えています。その上で、飼う上での注意点を補足するという構成にしたいと考えています。</p> <p>④一般的に蚊が卵から成虫になるには 10 日ほどかかると言われており、衛生的な観点からもこまめな水の交換が必要と考え、「衛生保持のためにこまめに取り替えて」という文言を追加しました。</p> <p>⑤ご指摘のとおり、人の食べ物やドッグフードを猫に与えることは不適当ですが、適切なフードを与えるよう記載していることで注意喚起も兼ねていると考えます。</p>
3	<p>地域猫活動を行っている。市の啓発印刷物でもエサやりを行なうものが糞の始末をするよう書いてあるが、個人の庭などまでは清掃できない。自分の庭や敷地で糞をされた場合は、快く片付けてほしい。</p>	<p>地域猫活動では、地域の理解のもと、野良猫の不妊去勢手術を行った上で、適正な給餌やふん尿の管理など、その野良猫の管理を地域でルールを決めて適正に行っていたいただいています。</p> <p>ご指摘の点も含め、猫の世話をしている人が中心となって、このガイドラインも活用しながら、地域全体で地域猫についての理解を深め、しっかりと地域のコミュニケーションをとっていただければと考えます。</p>

4	<p>以前から地域猫活動に興味をもち、人づてに話を聞くことがあったが、人それぞれ考え方が異なり分からないことが多かった。</p> <p>切実に思うこととして、猫のシェルターのようなものがほしい。特に冬場の寒さがかわいそうのため、猫達のそのような場所ができればいいと思う。</p>	<p>野良猫やその管理に対する考えは様々です。そのため、本ガイドラインによって一定の考えを示したいと考えています。</p> <p>シェルターについては、各地から猫を多数集めることによるストレスや感染症のリスクなど、様々な課題があることからただちに設置することは難しいと考えます。そのため、不幸な野良猫を減らすために今できることとして、協議会と神戸市や愛護団体が協力して譲渡の推進や繁殖制限に取り組んでいきたいと考えます。</p>
---	---	--

なお、協議会に対して直接寄せられたご意見も含め、今回の意見募集全体の結果については、協議会ホームページで閲覧することができます。（協議会ホームページ：<http://www.kobeneko-happy.com/>）